三年　ステップ２　解答

7　詩１　作者の意図を読み取る

組	番号	氏名

1　次の詩を読んで問いに答えなさい。

椰子の実

島崎　藤村

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ
故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月
旧の樹は生ひや茂れる
枝はなほ影をやなせる
われもまた渚を枕
孤身の浮寝の旅ぞ
実をとりて胸にあつれば
新なり流離の憂
海の日の沈むを見れば
激り落つ異郷の涙
思ひやる八重の汐々
いづれの日にか国へ帰らむ

※汝…おまえ。きみ。
そも…それにしても。
浮寝…夜ごとに寝るところをかえること。
あつれば…当てれば
流離…郷里を離れて他国をさまようこと。流浪。
激る…さかんにわき上がる。
八重…数多く重なっていること。

①　われもまた渚を枕／孤身の浮寝の旅ぞ　とありますが、ここから「われ」は今どこにいることが分かりますか。次のどちらかを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　名も知らぬ遠き島。
イ　故郷を遠く離れた海辺。

イ

②　「われ」は自分を何と重ね合わせていますか。詩の中の言葉を用いて二十字程度で答えなさい。

名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実

③　異郷の涙　とありますが、これとほぼ同じ心情を表す表現を詩の中から四字で抜き出しなさい。

流離の憂

調　詩を文体と形式によって種類に分けると、口語自由詩、口語定型詩、文語自由詩、文語定型詩に分けることができる（散文詩という種類もある）。この詩の種類はどれに当てはまるか、考えてみよう。